

# 文化のグローバル化と祝祭イベントの変容

—昆明国際文化旅游狂歡節の事例から—

長谷川 清

## Festival Transformation and Globalization of Culture: The Case of “Kunming International Cultural Tourism Festival and Kunming Carnival”

Kiyoshi Hasegawa

Yunnan is well known for the cultural diversity of ethnic minorities within the province. Since the 1980s, various types of cultural tourism have been promoted as an effective means of regional economic development. In this context, ethnic minority dance performances have become attracting products for tourists. “Kunming international cultural festival and Kunming’s carnival”, which began in 2000 is one of the largest cultural events with such contents. The purpose of this paper is to organize related data and materials on this event, and to examine the transformation under the globalization process in China.

**Key words :** Kunming, cultural tourism, ethnic minorities  
festival/carnival

### 1. はじめに—雲南省の観光開発と民族文化

観光開発は、発展途上にある国家にとって、地域経済を牽引する役割をもつとされている。中国についていえば、1980年代以降、少数民族の文化を資源としたエスニック観光（民族文化旅游、民族風情旅游）が各

地で推進されるようになった。特に、1990年代に入ると、対外開放政策の進展とともに少数民族地域への関心が高まり、諸民族の「民族文化」や「民族風情」が観光の目玉として商品化や産業化の対象になった。少数民族の多く居住する地方では、民族文化を活用した観光開発が展開し、彼らの伝統的な祝祭行事（「民族節日」）や風俗・習慣が観光プロモーションの対象になっていくのである（長谷川 2006）。

雲南省は26の少数民族が居住し、民族的な多様性という点において、中国のなかでユニークな地理的属性を有する。こうした中であって、雲南省の首府である昆明は、早くから「春城」という名称で知られ、観光化が進んだが、雲南省内のエスニック観光の目的地を交通・移動手段の面で結びつける拠点でもあった。特に、同市で開催された世界園芸博覧会（1999年）を機に、多彩な少数民族の居住する観光地として特色を強めていく戦略が打ち出され、観光開発にはいっそうの拍車がかかった。本稿で取り上げる「昆明旅游節」もこうした文脈のなかで2000年に始まったものである。このイベントは雲南省各地の少数民族の伝統的な祝祭行事や民族歌舞表演などを観光商品としてパッケージ化を進めたものである。観光を活用した国際交流イベントでもあったが、2004年に「中国昆明国際文化旅游節」と名称を変更し、さらに2007年にはカーニバル概念の中国版である「狂歡節」を付加してブランド化と特色化を図り、昆明を観光都市として内外に強くアピールする祝祭イベントとなっている（写真1、写真2）。

小論では、昆明市の側が雲南省の民族文化をどのように活用し、祝祭性を帯びた文化イベントを創出していったかについて、検討課題や論点を明らかにするために関連資料の整理を行うものとする<sup>1</sup>。



写真1 昆明の歴史的建造物  
(昆明市、2017年8月29日、筆者撮影)



写真2 都市建設のスローガン  
(昆明市、2017年8月31日、筆者撮影)

## 2. 中国におけるカーニバル概念の普及

グローバル化にともなう観光文化のダイナミクスの検討は現代社会の理解にとって有益である（遠藤 2017）。こうした視点から、中国の社会的文脈における観光文化の生成や創出過程に注目して事例分析を試みる必要があるが、少数民族の伝統的な行事や儀礼、音楽・歌謡、舞踊などに備わる祝祭性に注目することで、新たな研究領域や分析視角が開けてくると思われる。

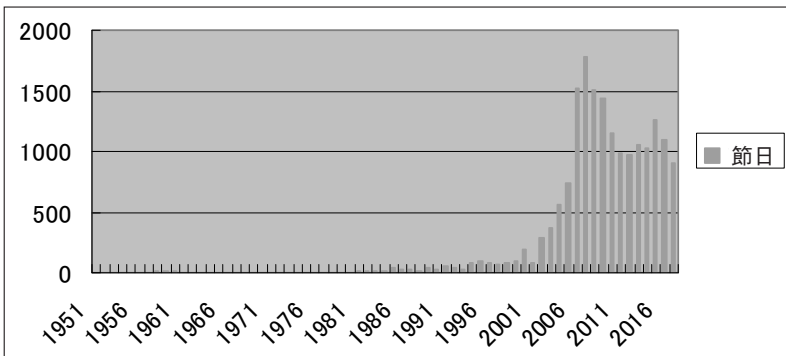
以下では、フェスティバルに相当する「節日」、カーニバルを意味する「狂歓節」、カーニバルの音訳である「嘉年華」を中国知網（CNKI）で検索し、その使用頻度の推移を確認してみたい。これによって、フェスティバルやカーニバルの帯びる祝祭性に関して、中国社会でどのような認識や評価が進行しているかをつかむことができると思われる。いずれもタイトルに「節日」「狂歓節」「嘉年華」を含んだ文献だけに絞るが、この数量的把握では少数民族に関するもののみを扱うものではない点を注記しておく。

### 2-1 「節日」

フェスティバルは祝日や祭り一般を指し、中国語では「節日」と呼ば

れている。中国国内で公表された文献のデータベースである中国知網によって、用例数の推移をたどってみると、1980年代後半から言及されるようになったが、2000年代後半からその使用例が一気に増えている。「節日常」を伴った用語としては、民俗節日常、民族節日常、節日常文化、節日常符号、節日常消費、節日常民俗、節日常風俗、節日常習俗、節日常活動、民族傳統節日常、民間傳統節日常、傳統節日常など、多様な用法が見られる。また、用例数だけを見ると、197例（2000年）、86例（2001年）、288例（2002年）、375例（2003年）、555例（2004年）、742例（2005年）、1516例（2006年）、1776例（2007年）、1505例（2008年）、1442例（2009年）と推移し、2010年代に入り、1000例前後の数値で推移している（図1）。ここで指摘しておきたいのは、中国において観光旅行などの文化消費が高まり、それが普及した2000年代になってから急増しているという点である。

図1 「節日常」の使用数



（出所）中国知網の書誌データに基づき、報告者が作成

少数民族の伝統的な行事に対して「節日常」をタイトルの一部に含んだ事例を確認してみると、1950年代に苗族や傣族の伝統行事に使った用例、すなわち「潑水節日常憶旧」（『民族團結』1958年4期）と「苗族節日常“四

月八”」（『民族団結』1958年5期）の用例しか見当たらない。その後は文化大革命期の空白を経た後、1981年にいくつかの用例が中国政府の民族政策の全般を扱う雑誌『民族団結』などに現れる。すなわち、「幾個少数民族傳統節日」（『民族団結』1981年1期）、「端節：水族の盛大節日」（『民族団結』1981年9期）、「草地藏民的節日」（『民族団結』1981年9期）、「水稻農耕民族的節日」（『民族団結』1982年8期）、「傣族的節日」（『民族団結』1982年6期）、「談談少数民族節日的特点」（『民族団結』1983年第7期）などがそれである。

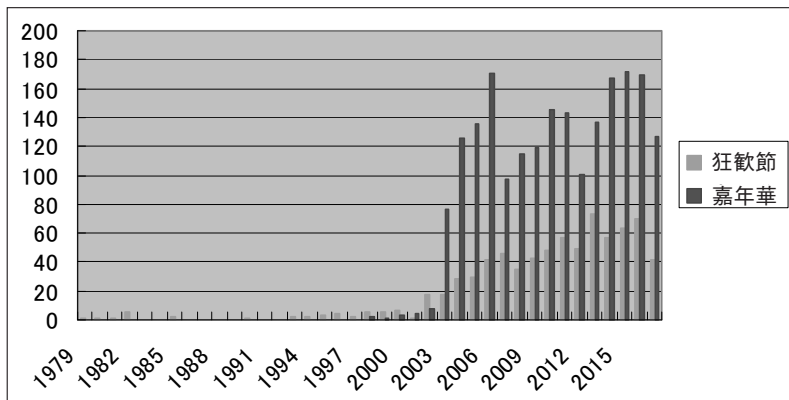
範玉梅は「我国少数民族的節日」（『社会科学戰線』1983年3期）において、中国は多民族国家であり、各族人民は長い歴史的発展の過程で多彩な「民族節日」を形成した。これらの民族節日は民族の風俗習慣の重要な構成要素であり、民族の特徴を主要な内容とし、表現形式を有すると記述している。このように、1980年代の前半には少数民族の伝統行事に対して再認識がなされ、様々な少数民族の事例が紹介記事として、さらには考察の対象として扱われていく。図1のグラフは、少数民族だけに限った用例だけではないので、これ以上の考察はできないが、1990年代を通じて事例数は少なかったのに対し、2000年代の後半から急速な伸びを示しているのである。

## 2-2 「狂歡節」と「嘉年華」

カーニバルとは、カトリック教徒が祝う四旬節（Lent）の直前数日間の祝祭のことである。しかし、今日では踊ったり歌ったりして楽しむ参加型のイベントにも冠される。乱痴気騒ぎ、祭り、コンテストなどの催し物やスポーツ・イベント、巡業見世物、移動遊園地などもカーニバルと呼ぶようになっていく。中国語では「狂歡節」や「嘉年華」という用語が当てられ、2000年前後から中国各地の祝祭的なイベントや行事に

対して用いられるようになった。両者とも用例数が増えていくのは2000年代以降であるが、特に2006年、2007年、2008年に一つのピークがある。こうした傾向は上にみてきた「節日」の状況と並行しており、文化の商品化や産業化が進み、文化の消費が拡大していく時期に対応していると思われる（図2）。

図2 「狂歓節」と「嘉年華」の使用数



(出所) 中国知網の書誌データに基づき、報告者が作成

図2は「狂歓節」の用例は「嘉年華」よりも時期が早い段階で起きていることを示しているが、その際、注目しておきたいのは、1980年代において、「狂歓節」は外国のカーニバルに対して使われていた点である。表1は中国知網で確認できた用例をまとめたものである。タイトルに含まれる文献だけに限定したが、事例数としては多くない。海外各地の風物や習慣、歴史・社会・文化などを紹介する雑誌である『世界知識』に地中海地域（イタリア）、ブラジル（巴西）、バルバドス（巴巴多ス）、メキシコ（墨西哥）、スイスのバーゼル（巴塞爾）などのカーニバルが紹介されているだけである。こうした状況は1990年代以降についても同

様であるが、イギリス、ドイツ、フランス、イタリアなどのカーニバルが新たに紹介されている（表1）。

表1 世界各地の「狂歓節」の紹介記事

1	地中海浜の狂歓節	世界知識	1979/4/16	期刊
2	巴西的狂歓節	世界知識	1980/6/14	期刊
3	巴巴多斯的狂歓節	世界知識	1981/7/15	期刊
4	狂歓節	瞭望	1982/2/6	期刊
5	墨西哥軍事狂歓節	世界知識	1982/12/12	期刊
6	巴塞爾的狂歓節	世界知識	1982/9/13	期刊
7	巴西狂歓節—地球上最偉大的表演	世界知識	1985/6/15	期刊
8	狂歓節、桑巴舞及其他	瞭望周刊	1993/6/6	期刊
9	古老的德国狂歓節	文化訳叢	1993/3/2	期刊
10	喧鬧的狂歓節	当代世界	1995/6/30	期刊
11	狂歓節観感	神州学人	1996/4/10	期刊
12	狂歓節之都	世界知識	1996/11/8	期刊
13	英国人的狂歓節	世界文化	1996/8/20	期刊
14	巴西狂歓節	舞蹈	1997/8/5	期刊
15	独具特色的尼斯狂歓節	光明日報	2002/2/22	報紙
16	巴西狂歓節	連合時報	2002/8/9	報紙
17	巴西狂歓節	世界文化	2002/11/1	期刊
18	瘋狂有序的巴西狂歓節	國際商報	2003/11/12	報紙
19	舞醉法国尼斯狂歓節	中国文化報	2003/4/9	報紙
20	西班牙的拉扎狂歓節	中国有色金属報	2003/1/30	報紙
21	威尼斯狂歓節	英語輔導	2004/6/5	期刊
22	巴西狂歓節賺足2.7億	發展導報	2004/3/16	報紙

(出所) 中国知網の書誌データに基づき、報告者が作成。

これに対して、2000年前後の時期からは中国国内の祝祭的な色彩を帯びる民族／民俗行事に「狂歓節」という用語が使われるようになった点は注目に値しよう（表2）。その早い使用例は甘肅省の「花児会」である。

花児は甘肅省の洮河流域を発祥とし、青海省・寧夏回族自治区の三省にわたって広く行われている伝統行事である。花児（ホワール）という即興的な「山歌」の掛け合いが主たる活動であり、漢語では「花児会」とも表記される。甘肅省蓮花山に伝えられてきた行事は2009年にはユネスコの無形文化遺産に登録された（徐素娟 2016）。この他、ほぼ同時期に、青海省の土族、雲南省の白族、景頗族、彝族などの伝統行事にも「狂歡節」が使用されている。

表2 中国各地の「狂歡節」の紹介記事

1	花児会—甘肅民間詩与歌の狂歡節	中国典籍与文化	1997/8/15	期刊
2	青海土族的“狂歡節”	甘肅日報	2000/9/14	報紙
3	白族狂歡節—繞三靈	今日民族	2003/7/30	期刊
4	景頗族狂歡節—目瑙縱歌	今日民族	2003/12/30	期刊
5	火把節：東方的“狂歡節”	中国民族報	2004/8/13	報紙
6	把南寧民歌節弁成東方的狂歡節	中国旅游報	2005/1/7	報紙
7	皇城根下東方狂歡節	人民日報海外版	2005/6/24	報紙
8	“東方狂歡節”—阿細祭火	今日民族	2006/6/20	期刊
9	昆明旅游節首次打出“狂歡節”品牌	雲南日報	2007/4/4	報紙

（出所）中国知網の書誌データに基づき、報告者が作成。

おそらく、この時期に諸民族の伝統的な民俗行事に対してこのような命名法が普及したことが考えられる。さらに注目したいのは「東方のカーニバル（東方的狂歡節）」という用法も出現したことである。これには西欧的なカーニバルに対して、中国国内の祝祭を東方のそれと命名する自国の文化伝統に対する意識や感情が反映されていると解釈できる。今日「狂歡節」という用語は中国各地で祝祭的なイベントに対して広く用いられるようになってきている。民俗／民族節日の中でも、特に祝祭的な活動内容や雰囲気有するイベントをさす用語として定着した感がある。



### 3. 都市祝祭の変遷

#### 3-1 民族文化と観光開発

雲南省政府（以下、省政府）が観光産業の育成を地域開発において重視するようになったのは1980年代後半からである（新編雲南省情編委會編 1996：500-503）。

第7次5か年計画（1986～1990年）の策定に際して、雲南省政府は観光産業の発展を主要な政策目標に据えた。以来、少数民族の伝統文化や風俗・習慣などを観光資源としたエスニック観光が各地で推進されていった（当代雲南簡史編委會主編 2004：548-554）。

当然のことながら、昆明でも民族文化は観光資源として重要視された。1988年9月から10月にかけて開催されたイベントに雲南民族芸術節があるが、これは雲南省のエスニック観光の発展に拍車をかけた。開幕式には、省内各地の専区、自治州、自治県から25の民族、28の表演チームが集められ、総勢3500名を動員した一大イベントとして話題を呼んだ。「文芸搭台、經濟唱戲」（文芸が舞台を組み、經濟が劇を演じる）の構想のもと、雲南省には各省区から36の代表団が集まり、物産交易会や經濟技術協力に関する商談会が繰り広げられた。こうした場において、余興や娯楽として少数民族の文芸公演や歌舞ショーは不可欠のものであった。省内各地の多彩な民族文化の存在を人びとに強く印象づけ、經濟的な活性化を促す上でも一役買ったのである。

第8次5か年計画の時期（1991～95）に入り、省政府は少数民族地域の観光開発に本格的に乗り出した。1992年7月、観光を軸とする第三次産業や文化産業の育成を發展戰略として決定した。同年、昆明で開催された中国芸術節は少数民族の「民族文化」や「民族風情」が雲南省の観光資源であることを強く認識させたが、民族歌舞やパフォーマンス、アトラクションは観光市場と連動した文化産業としての地位を確かなも

のとしていく。省政府は「民族文化大省」の建設という構想を1996年に打ち出し、2000年にはそれを具体化するための方策を明確にした。すなわち、「雲南民族文化大省建設綱要」、「雲南民族文化大省建設实施方案」、「雲南民族文化大省建設“十五”規劃」の策定に着手して行くのである(趙曉瀾等 2015: 203、尹欣・範建華主編 2010: 4)<sup>2</sup>。

ところで、この時期、雲南省では少数民族の祝祭行事に対し、カーニバルの中国語訳にあたる「狂歡節」という名称を付している点に注目しておきたい。表2に示した白族の「繞三靈」、景頗族の「目瑙縱歌」、彝族の「火把節」がそうした事例であるが、これらの記事が記載された『今日民族』は雲南省政府が発刊し、雲南省の民族政策を扱う雑誌である。

### 3-2 国際文化交流と祝祭イベント

2000年、第1回の昆明旅游節が開催された。期間は4月10日から5月10日であった。しかし、これは昆明市内で1か月間のイベントが延々と行われたというわけでない。雲南省各地の観光スポットで行われる祝祭イベントも含めて、統一的な観光キャンペーンによって、観光商品として系統化、パッケージ化を進めたものである。これは、各地の祝祭イベントが互いに関連づけられ、より系統だった観光開発が行われるようになったことを意味している。これには、石林の「火把狂歡夜」、徳宏の「中緬澆水節」、西双版纳の「澆水節」、臨滄佤族の「歌会」、怒江怒族の「仙女節」、楚雄彝族の「賽装節」、保山の「火山熱海旅游節」、大理の「三月街」、文山彝族の「花脸節」、麗江の「東巴文化国際旅游節」、迪慶の「香格里拉芸術節」、曲靖の「三月三对歌会」、紅河の「中越边境漂流游」などが含まれている。これらの大半は雲南の少数民族に関係する伝統的な祝祭行事である。

2004年、「中国昆明国際文化旅游節」へと名称が改められ、雲南省の

特色を強化していく方針が打ち出された。2006年の第7回からは開催期間を5月1日から5日までとした。毎日が祝祭（カーニバル）で春節である「天天狂歡節」、「天天是春節」というコンセプトに基づき、花車のパレードや民族歌舞、パフォーマンスの上演によって観光都市としての昆明のイメージを創り出すものであった<sup>3</sup>。

こうした行政指導では、イベントを再設計、創出していく上でコンサルタントやプランナーの役割が大きいが、その役目を担ったのは熊大尋という人物である。彼は昆明市政府から依頼を受け、「昆明市旅游総体戦略策劃」を策定した<sup>4</sup>。このプランは2004年1月に市政府に提出された。昆明市の側はこのプランを2006年の国際旅游節において実施することとしたが、雲南省政府の提唱した「雲南旅游二次創業」のスタートと軌を一にしていた。熊大尋のプランの特徴のうち、中核となっているのは「天天都是旅游節」というコンセプトである。一年中が祝祭である点を演出しようとする点にあった。その際、昆明が「春城」という呼称で知られている点は重要であった。四季を通じて毎日、花車のパレードと歌舞表演を行い、“狂歡昆明”というイメージを創りあげる。「天天狂歡節」、「天天是春節」というものを実体化していくにはどうしたらよいのか。熊のアイデアは以下のようなものだった。

雲南省には26の少数民族が居住しているが、各地の少数民族の村落をすべて見て回るのは不可能である。しかし、「集市」という方法を使えば、この点を解決できるだろう。雲南では集市のことを「街子」といい、その伝統がある。観光客は各地方に行く必要はなく、この集市に来て、一度に26の少数民族の風俗・歌舞と民族文化を鑑賞すればよい。この役目を昆明が担い、「昆明天天是春節」のコンセプトによって民族文化のパッケージ化を図る。そして、このパッケージを昆明市が今後建設していく予定の6つの広場、20の城市緑地、歩行街で展開する。そこで繰り広げ

られる歌舞表演、花車巡演、音楽隊のパレードなどを通じて、昆明は少数民族が狂歓する都市となる。ブラジルのリオデジャネイロ、フランスのニース、イタリアのベニスやミラノ、ドイツのケルン、スペインのカディスのように、カーニバルの都市としての性格を持たせるのである。中国国内ではこうした都市の表象やシンボルはあまり存在しておらず、昆明がふさわしい。類例を見ない「民族狂歓の都」となることができるだろう。具体的には、祝祭の開催期間を5日間とし、4つのテーマによる活動を行う。第一は、観光イメージ大使を選抜するコンテスト、第二は、昆明の主要街道である東風路で花車のパレードを行う。第三は、昆明内にある8つの文化広場で毎日、祝祭的な娯楽活動を行う。第四は、世博園で「長街宴」と呼ばれる大宴会のイベントを企画する。

2007年、昆明市政府はこの熊大尋のプランをもとに、それまでのイベントを「中国昆明国際文化旅游節昆明狂歓節」という名称に変え、国際化と民族化の両面から特色化を図っていくとした。ここで注目したいのは「昆明狂歓節」が加わった点である。狂歓節というアイデアによってブランド化をねらったのである。2007年4月4日の『雲南日報』にはこれに関連する記事が掲載されている（表2）。具体的に、2007年に行われた行事の内容を見ておこう<sup>5</sup>。

この年のテーマは「相約狂歓昆明、体験七彩雲南」である。開催時期は2007年5月1日から5月5日までである。従来の雲南省内の18地区の代表チームの他に、韓国、インド、インドネシア、タイ、ベトナム、ロシア、マレーシア、ミャンマーからも歌舞チームが招かれた。5日間の内容は以下のとおりである。

5月1日、市内の東風広場において開会式が開催された。花車のパレードには雲南省内の16の州市、重点企業、招待された国際観光都市の代表チームが参加した。5月2日から5日には、金馬碧鷄広場（写真

1) において国際民族風情展演が上演された他、雲南の諸民族による民族歌舞の上演（広場民族歌舞展演）が東風広場、桃源広場、世博園大門広場、北大門広場（以上、盤龍区）、南屏步行街広場、翠湖北門広場（以上、五華区）、碧鷄広場、西寺塔広場、永昌広場（以上、西山区）、官渡広場（官渡区）などに作られた舞台で行われた。また、西寺塔広場では水かけの娯楽活動（澆水狂歡活動）が行われた。2日、3日の夜には「春城夢幻之夜花車巡遊」と題された、装飾された花車のパレードがあった。

また、広場民族歌舞展演は二つのタイプがあり、金馬碧鷄広場では国際民族風情展演を行った。これに対し、盤龍区では東風広場、桃源広場、世博園大門広場、北大門広場、五華区では南屏步行街広場、翠湖北門広場、西山区では碧鷄広場、西寺塔広場、永昌広場、官渡区では官渡広場において雲南省の各州市から選抜された少数民族の歌舞表演が行われた。また、西寺塔広場では水かけ（澆水狂歡活動）が行われたが、これは傣族の伝統的な祝祭行事である。

この他、昆明市内及び近郊の観光スポットでは少数民族のパフォーマンスや歌舞があり、東西寺塔步行街（昆明市内）では民族料理による大宴会（民族風味小吃長街宴）が開かれた。さらに、「昆明老街」を構成する南屏街、正義路、甬道街、景星街などでは民間芸人のパフォーマンス、名物料理、民間工芸の制作上演、観光商品の展示即売などが行われた。

その後、このイベントは2009年から開催期間が5月1日から3日までに短縮された。さらに、2010年からはブラジルから招待したサンバのチームや欧米・アジア諸国の歌舞やパフォーマンスなども付け足され、昆明の観光化や国際化、地域的特色をアピールするものとなっている。そして、2011年からは専用のウェブサイトも開設され、活動内容を紹介する写真資料とともに、関連の記事が多数アップロードされている<sup>6</sup>。

#### 4. 今後の課題

カーニバルの訳語である「狂歓節」という概念が中国にどのように導入され、中国諸民族の祝祭行事に使用されるようになったかという問題関心から、雲南省・昆明市の文化イベントの事例を紹介した。今後、このイベントがさらにどのようなものに発展、変容していくのか興味深い。改革開放の時代に入ってから観光化の流れの中で新しく創出された都市型の祝祭的な文化イベントは国際化、民族化、娯楽化の性格を強めているが、市内の公共広場や街路空間などを舞台に少数民族の歌舞が上演され、市民生活に彩りを与えるフェスティバル、カーニバルとしての性格も持っている。本来、外来のものであるカーニバルという概念を「狂歓節」として受容し、ローカルな民族文化との融合が行われている点で、グローバル化の進行する現代社会の文化現象の一例として他地域の事例と比較していくことが重要であろう。観光都市の特色をいかに魅力あるものとするか、その際、諸民族や地域の文化資源を市場経済化と結びつけようとしているかなどを検討することによって、中国社会の理解を深めていくことができるばかりでなく、東アジア地域を対象にした比較文化研究の進展にも寄与すると思われる。

#### 注

- 1 本稿は2017年度日中韓三国日本語文化に関する国際学術シンポジウム（2017年10月14日、於：文教大学）で報告した内容を加筆修正したものである。
- 2 2000年代における観光開発や民族文化の商品化については、万能松主編 2001、雲南省人民政府研究室編 2004などを参照。
- 3 第1回～第10回の内容に関しては、「中国昆明国際文化旅游節」  
<http://www.innyo.com/content.aspx?id=622073555062>（最終アク

セス日：2017年11月26日）を参照。また、2005年度については、以下のパンフレットが参考になる。雲南省旅游局『2005中国雲南旅游活動指南』昆明：雲南画報社。

- 4 「中国首个狂歡之都旅游營銷策劃方案」（熊大尋旅游營銷策劃公司）  
《昆明旅游發展戰略策劃案》2004年2月  
[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_602189690102vcn6.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_602189690102vcn6.html)（最終アクセス日：2017年11月26日）を参照。
- 5 2007年度については、以下のウェブサイト参照。  
「2007中国昆明国際文化旅游節昆明狂歡節活動内容」（<http://www.sina.net> 2007年04月13日 12:06 新浪城市連盟—云南）  
<http://city.finance.sina.com.cn/city/2007-04-13/85106.html>（最終アクセス日：2017年11月26日）、  
「昆明国際文化旅游節推出53項精彩活動」（<http://www.sina.net>）  
<http://city.finance.sina.com.cn/city/2007-04-11/85007.html>（最終アクセス日：2017年11月26日）、  
「“五一”黄金周昆明8大活動助市民狂歡」（<http://www.yndaily.com> 2007年04月18日 10:11 云南日報網）  
[http://paper.yunnan.cn/html/20070428/news\\_93\\_167983.html](http://paper.yunnan.cn/html/20070428/news_93_167983.html)（最終アクセス日：2017年11月26日）
- 6 2011年度については、以下の資料を参照。2011中国昆明国際文化旅游節昆明狂歡節—昆明信息港  
[http://news.kunming.cn/subject/node\\_29707.htm](http://news.kunming.cn/subject/node_29707.htm)  
[http://news.kunming.cn/subject/node\\_29707.htm](http://news.kunming.cn/subject/node_29707.htm)（最終アクセス日：2017年11月26日）

## 参考文献

### 1. 文献

- 遠藤英樹 2017『ツーリズム・モビリティーズ—観光と移動の社会理論』  
京都：ミネルヴァ書房。
- 当代雲南簡史編委会主編 2004『当代雲南簡史』北京：当代中国出版社。
- 長谷川清 2006「エスニック観光と「風俗習慣」の商品化：西双版纳タ  
イ族自治州の事例」『国立民族学博物館調査報告』巻63、173-194頁。
- 万能松主編 2001『孔雀伴舞彩雲南』広州：広東旅游出版社。
- 新編雲南省情編委会編 1996『新編雲南省情』昆明：雲南人民出版社。
- 徐素娟 2016「『野草』から無形文化遺産へ—甘肅省蓮花山の花児と花  
児会」『国立民族学博物館調査報告』136、181-201頁。
- 尹欣・範建華主編 2010『1996-2006雲南文化産業十年報告』昆明：雲  
南大学出版社。
- 雲南省旅游局 n.d.『2005中国雲南旅游活動指南』昆明：雲南画報社。
- 雲南省人民政府研究室編 2004『七彩雲南 快樂天堂』瀋西：徳宏民族  
出版社。
- 趙曉瀾等編著 2015『文化之美』昆明：雲南出版集团・雲南美術出版社。

### 2. ウェブサイト資料

- <http://www.innyo.com/content.aspx?id=622073555062>
- [http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_602189690102vcn6.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_602189690102vcn6.html)
- <http://city.finance.sina.com.cn/city/2007-04-11/85007.html>
- <http://city.finance.sina.com.cn/city/2007-04-13/85106.html>
- [http://paper.yunnan.cn/html/20070428/news\\_93\\_167983.html](http://paper.yunnan.cn/html/20070428/news_93_167983.html)
- [http://news.kunming.cn/subject/node\\_29707.htm](http://news.kunming.cn/subject/node_29707.htm)  
[news.kunming.cn/  
subject/node\\_29707.htm](http://news.kunming.cn/subject/node_29707.htm)